保　証　書

株式会社 カスタム

保　証　規　定

1. 保証期間中に正常な使用状態で、万一故障等が生じました場合は無償で修理いたします。
2. 本保証書は、日本国内でのみ有効です。
3. 下記事項に該当する場合は、無償修理の対象から除外いたします。
   - a 不適当な取扱い、使用による故障
   - b 設計仕様条件等をこえた取扱い、または保管による故障
   - c 当社もしくは当社が委嘱した者以外の改造または修理に起因する故障
   - d その他当社の責任とみなされない故障

機種名	SL-1370	シリアルNo.	
保証期間	年　月　日 より1ヵ年		
お客様	お名前　　　　様		
	ご住所		
	電話番号		
販売店	住所·店名		

販売店様へ　お手数でも必ずご記入の上お客様へお渡しください。

総合計測器メーカー
株式会社　カスタム
〒101-0021東京都千代田区外神田3-6-12
PHONE (03)3255-1117　FAX (03)3255-1137

CUSTOM CORPORATION
6-12, 3-chome, Sotokanda,
Chiyoda-ku, TOKYO, JAPAN 101-0021

2009年3月改訂

騒音計
型番：SL-1370

取 扱 説 明 書

このたびは、当社の騒音計をお求めいただきましてまことに有り難うございます。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用下さい。なお、お読みいただきました後も、この取扱説明書を大切に保存されることをおすすめします。

安全にご使用いただくために

本器を安全にお使いいただくために次の事項をお守りください。誤った使い方は火災や感電、故障の原因となります。

⚠ ご使用上の注意

●メンテナンスとクリーニング
・本器の修理またはサービスを行うのは専門知識を持った方に限られます。
・本器のクリーニングは定期的に乾いた布で拭いて下さい。シンナーやベンジン等の溶解性の薬品は絶対に使用しないで下さい。

●安全上のマーク
CE　EMC適合シンボル

サービスで消耗部品の交換を行う場合には、必ず規定された定格部品をご使用下さい。

1.特長

●コンデンサーマイクロホンセンサーで正確に騒音を測定し、バーグラフおよびデジタル表示します。

●本器はIEC651タイプ2、ANSI S1.4タイプ2に準拠した設計です。

●A特性とC特性の周波数補正特性およびFASTとSLOWの動特性を備えた機能的な騒音計です。

●AC/DC信号出力付きです。記録計やFETアナライザーと接続して使えます。

●MAX.およびMIN.ホールド機能で最大測定値および最小測定値を記録します。

●RS-232シリアルデータ出力付きなのでPCと接続して使用することができます。

●オートレンジ(30～130dB)機能およびオートパワーオフ機能付きです。

2.仕様

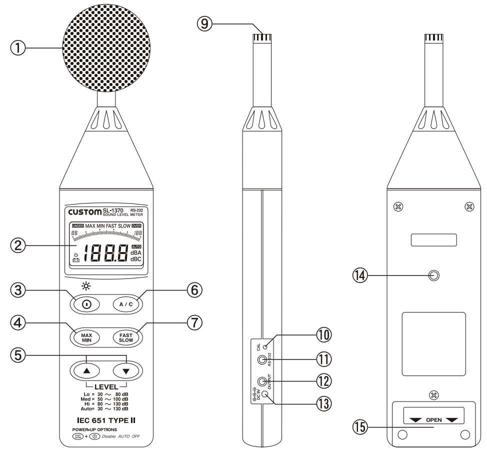
2-1.一般仕様

基準規格	IEC651タイプ2およびANSI S1.4タイプ2
周波数範囲	31.5Hz～8KHz
測定範囲	A特性30～130dB　C特性30～130dB
センサー	1/2インチ径コンデンサーマイクロホン
デジタル表示	4桁液晶表示(LCD)　分解能:0.1dB 表示サンプリング:0.5sec.
アナログ表示	50セグメントバーグラス　分解能:1dB 表示サンプリング:50mS
動特性	FAST(125mS)、SLOW(1sec.)
測定レンジ	Lo:30—80dB　Med:50—100dB Hi:80—130dB　Auto:30—130dB
精度	±1.5dB(1KHz、94dB校正後)
オーバーレンジ表示	「OVER」マーク表示
アンダーレンジ表示	「UNDER」マーク表示
最大値/最小値ホールド	最大測定値および最小測定値を記録
AC出力信号	1Vrms FS(フルスケール)にて 出力インピーダンス:約100Ω
DC出力信号	10mV/dB　出力インピーダンス:約1KΩ
電源	角型9V乾電池(006P、6F22、6LF22 等)※
電池寿命	約50時間(アルカリ電池にて)
ACアダプター(オプション)	VSM-932K
使用温湿度	0～40℃、90%RH以下(但し結露のないこと)
保存温湿度	−10～60℃、75%RH以下(但し結露のないこと)
寸法・重量	64(W)×275(H)×30(H)mm、約285g
付属品	取扱説明書、キャリングケース×1、 調整用スクリュードライバー×1、防風スクリーン×1、出力信号接続用イヤホンジャック×1
オプション	ソフトウェア+RS-232接続用ケーブル(SE322U kit)

※ご購入の際に、本製品に出荷確認用の電池が内蔵されている場合がございます。初めてご使用頂く際には、必ず新しい電池と交換してください。

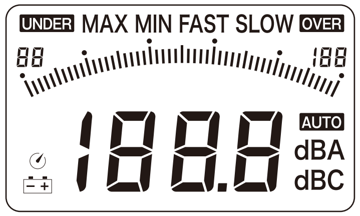
3.各部の名称

●本体部



① 防風保護スクリーン
風速が10m/秒を超える環境においてマイクロホンにかぶせ使用します。

② 表示部



マーク	機　能
LCD	4桁液晶表示
MAX	最大値ホールド
MIN	最小値ホールド
OVER	オーバーレンジ
UNDER	アンダーレンジ
FAST	Fast動特性
SLOW	Slow動特性
dBA	A特性
dBC	C特性
88-180	レンジ表示
−+	電池電圧低下表示
-LO-	20dB以下アンダーレンジ

③ 電源／バックライトボタン
電源のオン、オフおよびバックライトのオン、オフスイッチです。
一度押すと騒音計の電源がオンします。
再度押すとバックライトが点燈します。もう一度押すと消えます。
3秒間押し続けると電源がオフします。

④ MAX/MINホールドボタン
このボタンは騒音レベルの測定において最大測定値および最小測定値を記録する場合に使用します。まず、測定値が測定レンジの範囲を超えないよう、適切な測定レンジを選択して下さい。次に1度ボタンを押すと「MAX」マークが表示され記録した最大値を表示します。再度ボタンを押すと「MIN」マークが表示され記録した最小値を表示します。さらにボタンを押すと「MAX」「MIN」マークが点滅して現在入力値測定の状態になります。
またこのボタンを2秒以上押し続けると最大値・最小値ホールド機能を解除します。

⑤ ▲／▼測定レンジレベル選択スイッチ
測定レンジを選択するスイッチです。▲を押すとAuto→Lo→Med→Hiの順にレンジ変更を繰り返します。

⑥ A/C周波数補正回路選択ボタン
A:A特性—通常の環境騒音レベルの測定に使用します。
C:C特性—低周波を含んだ騒音レベルの測定に使用します。
(C特性で測定した値がA特性で測定した値よりもはるかに高い場合、この騒音は低周波帯のノイズを多く含んでいることになります。)

⑦ FAST/SLOW動特性選択ボタン
FAST:通常の騒音レベルの測定に使用します。
SLOW:変動している騒音レベルの測定に使用します。

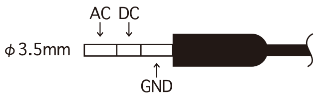
⑨ 1/2インチ径コンデンサーマイクロホン

⑩ 校正用ポテンショメーター(CAL)

⑪ RS-232インターフェース
RS-232信号出力端子です。

⑫ AC/DC信号出力端子(OUT PUT)
AC:1Vrms・フルスケール
3.5mmイヤホンジャックを使用してください。
注意:「Auto」レンジでは出力信号により自動的に「Lo」「Med」「Hi」のいずれかのレンジが選択されます。

DC:出力:10mV/dB
3.5mmイヤホンジャックを使用してください。



⑬DC9V ACアダプター用端子

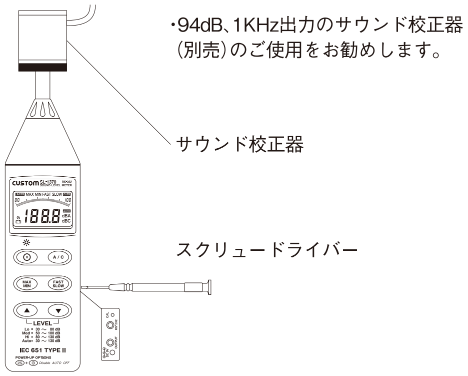
⑭ 三脚スタンド用ネジ穴

⑮ 電池カバー

4.オートパワーオフ

本器の電源をオンにするとオートパワーオフモードになっています。キー操作やRS232ケーブル接続によるコミュニケーション、データの記録等がされなくなってから約30分後に本器は自動的に電源をオフにします。
「FAST/SLOW」ボタンを押しながら電源をオンにすると、マークが消えオートパワーオフモードは解除されます。

5.校正方法



本器は出荷前に校正されていますが、一年に一度再校正することをお勧めします。

(1)本器のスイッチを下記のように設定してください。
周波数補正特性:A特性(dBA)
動特性:FAST
測定モード:最大値・最小値ホールド機能は使用せず。
測定レンジ:50〜100dB

(2)騒音計の感音部(マイクロホン)を校正器の接続部に差し込んで下さい。

(3)校正器の電源を入れ、騒音計の表示が94.0dBになるまで校正用ポテンショメーターを調整して下さい。

6.測定前の準備

(1)電池の装着
本器をご使用になる前に、本体裏面の電池カバーを外し9V電池を装着して下さい。

(2)電池交換
電池電圧が動作電圧以下になると液晶表示部に[-+]マークが点燈します。電池(9V)を交換して下さい。

(3)ACアダプターの接続
ACアダプターをご使用になる場合は、サイドパネルのDC9V ACアダプター用端子をご使用下さい。

7.取り扱い上の注意

(1)マイクロホンを通じて入ってくる風は外部ノイズとなります。風のある環境下で測定する場合は防風保護スクリーンをかぶせてご使用下さい。

(2)長期間ご使用にならなかった場合や悪環境下で使用された場合は、ご使用前に再校正されることをお勧めします。

(3)長期間にわたり本器を高温多湿な環境に放置しないで下さい。また、同様に高温多湿な場所での操作は避けて下さい。

(4)マイクロホンセンサー部は乾いた状態に保ち、衝撃を避けて下さい。

(5)本器を長期間ご使用にならない場合は電池を本体から外して湿度の低い環境に保管して下さい。

8.測定方法

(1)電源ボタンをオンにして動特性を選択して下さい。被測定騒音源が間欠音の場合やピーク値を測定する場合は「FAST」を選択し、騒音を平均的レベルで測定する場合は「SLOW」を選択して下さい。また、周波数補正特性を選択して下さい。通常の騒音測定はA特性を選択して下さい。機械等の騒音測定にはC特性を選択して下さい。

(2)適切な測定レンジを選択して下さい。

(3)騒音計を手に持ち、あるいは三脚(オプション)で固定させ、マイクロホンセンサー部を騒音源に向けます。騒音レベルがdB(デシベル)単位で表示されます。

(4)ゆっくりと騒音環境が変化する状況下で長時間安定した測定をする場合に、最大値・最小値ホールド機能(MAX/MINホールドボタンを押します)を最大値および最小値の読み取りに使用して下さい。この機能は特性やレンジの選択によらず使用できます。
また、MAX/MINホールドボタンを2秒以上押し続けると「MAX」「MIM」マークの表示が消え、最大値・最小値ホールド機能を解除します。

(5)測定が終了したら電源ボタンを3秒以上押して電源をオフにして下さい。